

平成28年度 森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会 活動紹介

地域小学校の学校林活動支援 「河内小学校 学校林活動」

NPO法人里山倶楽部 副代表理事 新田章伸
河南町立河内小学校 教頭 内山裕生



里山倶楽部の概要

活動地域：大阪府南河内郡河南町
町内の民有林，町有地
約24ha
(富田林市、千早赤阪村、
吹田市万博公園等)



設立年月：1995年(平成7年)
2002年(平成14年)法人格取得

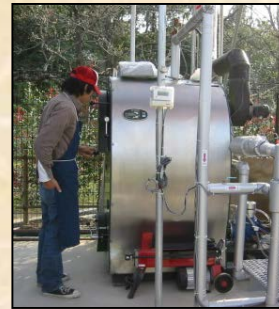
会員数：約150名(2016年4月)

予算規模：約2,000万円(2016年度)

ミッション：「新しい“里山的”生き方・暮らし方の提案」

事業・講座

- (1) 里山保全及び管理事業
- (2) 環境教育事業(含む、学校林活動)
- (3) 人材養成事業
- (4) 流域及び地域の人、もの、経済の循環システムづくりに関する事業
- (5) 再生可能エネルギーの導入、普及、啓発事業
- (6) 棚田保全事業及び農業
- (7) 前各号に関する受託事業
- (8) その他、本会の目的を達成するために必要な事業



河内(かうち)小学校の概要

所在地 : 大阪府南河内郡河南町さくら坂

児童数 : 280名(2017年1月)
4年1クラス、他学年2クラス

教育目標 : 自立と貢献

校区状況 : ・河南町人口 約16,000人 小学校4校、中学校1校
・山や田畑に囲まれた昔ながらの田園風景が広がる中
新興住宅増設に伴い建てられた学校。
(現校舎平成2年建設)
・保護者は若い世代が多く、保護者同士の結びつきも
少ない。



「河内小学校 学校林活動」の概要

対象: 河内小学校 3、4、5、6年生

2016年度 4年1クラス 3、5、6年2クラス

思い: 里山倶楽部

地元小学校への環境教育(ESD)支援を通じ、地域へ
貢献し、里山への理解を広げたい。

河内小学校

自然あふれる里山での体験学習によって、子どもたちに
森と出会い、人と出会ってほしい。

場所: 小学校校内・周辺、茶の木原学校林（校区内 徒歩約30分）

指導: 里山倶楽部ボランティア 2～8名

沿革:

- 2002年度 弘川寺歴史と文化の森ふれあい推進協議会発足。
6年 学校林整備のため下草刈り。
卒業記念植樹を行う。
- 2003年度 炭焼き窯完成。竹炭作り、間伐など本格化。
歌「河内の山」創作。
- 2004年度 3年～6年の学校カリキュラムが整う。
- 2007年度 5年 田んぼ開始。
- 2009年度 企業助成を得て、カリキュラム見直し・整理プロジェクトに一年かけ取組む。
全日本学校関係緑化コンクール 学校林等活動の部
入選（主催：国土緑化推進機構）
- 2016年度 カリキュラム見直し。新カリキュラム（現行）開始。

プログラムの概要：(2016年度)

	3年	4年	5年	6年
テーマ	自然と親しむ	竹・昔の暮らし	田んぼ・食	木・ものづくり
1学期	事前授業 身近な自然と 親しもう ＜春編校内＞ ＜夏編＞	事前授業 竹林整備	事前授業 田植え 田草取り	事前授業 間伐・皮むき
2学期	学校林と親しもう ＜秋編＞	竹食器、 竹飯づくり	稲刈り (作って食べる)	間伐材で 学校林整備
3学期	学校林と親しもう ＜冬編＞ 事後授業	竹炭づくり 事後授業	事後授業	記念植樹 事後授業



身近な自然と親しもう

<春編 校内>

3年



学校林と親しもう <夏編>



<秋編>



<冬編>



竹食器 竹飯づくり



竹林整備



4年



竹炭づくり





田草取り



田植え

5年



稲刈り





間伐・皮むき

間伐材で学校林整備

記念植樹

6年



プログラムの展開

「3年：自然と親しむ」 4回 14時間

in - 自然、森林に関する関心・意欲を高める。

「4年：竹・昔の暮らし」 3回 10時間

about - 森林や森林文化についての知識・技能を学ぶ。

「5年：田んぼ・食」 3回 8時間

about - 里山、里山文化についての知識・技能を学ぶ。

「6年：間伐・木の暮らし」 3回 10時間

for - 森林整備、木材工作、植樹を実践、地域貢献も実践する。

活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点）

自然的特性 ・植物や動物の生態を知る ・自然の変化に気付く

「3年：自然と親しむ」

校内にある植物など生き物に興味を持ち、校区内の学校林に範囲を広げる。4年間行う様々な自然体験活動の出発地点として自然を身近に感じるために春・夏・秋・冬の自然の移りかわりを通して学んでいく。

管理・維持 ・森林の役割を学ぶ ・間伐の意味 ・効率的な製作の工夫

「6年：木・ものづくり」

理科で学ぶ森林の役割について、校区内の山、法面の間伐を通して学んでいく。間伐した材をもとに、製作の計画を立て、グループや個人での卒業制作（環境整備）を行っていく。

歴史・文化 ・竹の性質を知る ・竹炭の利用

「4年：竹・昔の暮らし」

竹の性質を学んだ後、学校林にある窯（千年窯）で炭焼きを行う。身近な日常生活でも竹炭が利用されていることを知り、炭の消臭効果や工芸品などとして利用されていることを学ぶ。窯に入れた後、卒業前に子どもたちは持ち帰り、活用する。

活動の分析（資質・能力の視点）

①生きて働く「知識・技能」の習得

「進んで参加する態度」 4年：竹・昔の暮らし

校舎付近にも竹林があり、子どもたちにとって身近な竹について調べ学習をする。「なぜ？」「どうして？」と竹に関する疑問を持たせた上で、活動に取り組みさせることで、より主体的な深い学びとなり「知識・技能」の習得につながる。その学ぶスタイルが5年、6年にもつながり、近くの自然について自ら調べ、参加しようとする態度の育成につながる。

②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

「コミュニケーションを行う力」 3年：自然と親しむ

校内の身近な自然や学校林の自然のうつりかわりの様子から個人で感じたことをペアやグループでことばで表したりや作品として表現したりすることで、他者理解をすすめることができる。また、複数の子どもと協力しようとする協調性が身につく。学んだことをまとめる・振り返る活動を通して、相手を意識した表現力の育成につながる。

活動の分析（資質・能力の視点）

③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養
「多面的、総合的に考える力」 6年：木・ものづくり

森林の役割を理解し、間伐の意義を通して身近な生活に生かす工夫を感じる。
4年間の学校林活動の中で、他の学年の子どもが学びやすい環境を整備することで、豊かな人間性の構築を行う。

実施後、参加者の変化

- ・自分たちの知らない校区、自然のよさを感じることができている。
- ・教職員も改めて、自然体験、森林体験、校区のよさを感じている。
- ・教科書で学ぶ内容を体験を通して経験することで、深い学びにつなげている。
- ・活動ごとのふりかえり、まとめ活動を通して、他者への発信する力が身につけてきた。
- ・実際に木材・竹に触れることで、加工されるまでの資源価値を認識し、自然保全の意識が高まった。
- ・工具を用いる経験が多いため、図工の工作では、率先して工具を用いようとする姿が見られるようになった。

今後のめざす方向・展開

- ・ESD及び森林環境教育(森林ESD)の一層の社会化を受け、学校、NPOの状況にあった定期的なプログラム改訂により、持続可能な取り組みとして継続
- ・新学習指導要領に沿った活動内容、意義の見直し
- ・近隣の学校への取り組みの発信

現状での課題、質問事項など

- ・2019年度の河南町における学校統合(別の2校が河内小学校に統合)による児童数の増加等の課題の克服
- ・ESD及び森林環境教育(森林ESD)に対する、学校側(教育委員会、教職員、保護者)及びNPO側(会員)の理解促進、実施への継続的な努力
- ・異動・新任教職員への学校林活動の意味の確認
- ・プログラム実施における予算の確保